

小・中学校 誌上座談会

## 校長・教育長アンケートから 何を学ぶか

編 集 部

趣旨―座談会のねらい

06年秋、にいがた県民教育研究所が理念とする教育基本法が改悪されました。この教基法「改正」反対運動の中で、新潟県が当面する教育課題について中学校長および市町村教育長に対するアンケート調査を行いました。773人をお願いして、その約2割にあたる151人の方からきわめて真摯な回答を得ました。

特集は、このアンケートに教育行政批判意見を寄せられてきた背景や実態を明らかにしながら、子どもたちの健やかな成長のために、新教育基本法のもとでのこれからの新潟県の学校教育を、どのようにつくっていけばよいかを考える企画といたしました。

そこで、校長・教育長の声(ゴシックの文章)をそのままテーマ別に整理し、これについて県内の小・中の先生方に、これまでのご自分の体験や実践をとおして校長の声の背景や職場の実態の分析を深めていただきました。

その際、学校における教育労働の現実をありのままにみて、校長の回答が事実かどうか、また校長が指摘

しているような教員のありかたや指導力量についても真正面から答えていただきました。

## 1 校長の声を全体としてどう受け止めるか

Aさん（小学校） 率直に言って、予想していたものより、共感できる内容が多く驚いています。であれば、もっと協働できる校長先生がおられるのだなと思います。なぜ、一致していけないのか大いに疑問です。

Bさん（中学校） 現場の学閥の小中学校の校長が答えてきたことはまずは評価すべきである。これらの声は校長ですら、学校運営をするにあたってのまさに現場からの悲鳴と言わざるを得ない。それほど、学校は課題山積みである。人も増員せず、予算もつけないでただただ学校を運営しろと言っても難しいことはわかる。校長はそういう面で、文部行政に対して不満を大いに持っていると思われる。

## 2 教育行政の在り方と学校の主体性（自立）

校長の声 「教育改革という名の教育破壊がすすむ。国による諸政策がなんの検証もなく、現場の声を聞か

い、現場を見ない、子どもの顔を見ないですすめられている。先生方が子どもたちと向き合える条件を出来るだけ多く作り出すために、これ以上の『教育改革』はすすめるべきではない」

編集部 いまの教育改革の進行で学校はどのように変わったでしょうか。

Cさん（小学校） 次々と出る改革で、学校が疲弊していると思います。近年一緒に勤めた校長たちも、さんざんという感じでした。特に教員評価については良心的な（？）気の弱い（？）人はどうしたらいいのか困っている様子です。職員に説明したとき、質問や意見がたくさん出ました。管理職の先生たちの研修はどうなっているのか聞くと「していません。そのうちにあると思いますが、どうなっているのでしょうか」と。試行したところは「仕事が増えたし、いやーな気持ちになった」というと「しかたない」、「正しい評価ができるのですか」という質問も出て、最後は答えられなくて、管理職は困っている。

Dさん（小学校） 教育改革という名の教育破壊に、県自体の追従もすさまじい。新潟県のトップにそのよ

うな姿勢もあるのかもしれないが、新潟県の教員社会に巣くっている「学閥」の存在を無視して語ることはできないように思う。「学閥」の中で管理職を目指し、異動がうまくいくように管理職の決めたことに忠実に生きる。そういった物言わぬ教師を多く作り上げてきたことが、教育行政で決めたことが当たり前のように降りてくる状況を生み出したのではないか。

もちろん、「学閥」に入っているとはいっても先生方のほとんどは良心的な方ばかりである。子どもたちとしっかりと向き合おうとする姿も見える。それだけにそういった方々が上を向いて歩くことのないように管理職の方にも、考えて学校づくりをしていただけたらありがたい。

Bさん 「ゆとり教育」から、「学力向上」教育の転換は学校現場に混乱を招いている。現場の教員は現在の教育を前向きに改善するには教員の増員、30人学級に予算をどれだけつけるかにかかっていると考えている。それをしないで、教育改革だけ唱えても何も改善されない。急激な教育改革は、子どもと接することができなくされるために、中学校の荒れが全体的に吹き

出している。

Eさん 総合的な学習や選択授業の増加で、教科学習の時間が減り、授業の進度が速くなった。そのため、復習の時間や学習内容定着のための時間がとれない。

Eさん グランドデザイン（基本的な設計）の作成やその具体化の計画作成・評価のための資料作り・アンケートの実施と集計など、今までになかった仕事が増えたが、それが子どもたちの成長にいかされている実感を持ってない。

編集部 競争原理は、具体的にどのような現場に現れていますか。

Bさん すべて点数で測ることは子どもにも親にも貫徹されている。成績が中学生活のすべてという感はない。また、その本質と同じ、部活動も課題が多くある。

Eさん 私の学校では、特にそれを意識するような状況はみられない。

編集部 共通テストを学校としてどう捉えていますか。  
Bさん 否定的である。特に、アンケートは無駄なものであると校長以下、職員は考えている。

Eさん 今年度は修学旅行と重なったため、日をずらしての実施だった。そのためか、「とにかくやりさえすればいい」という感じで、特に意識する雰囲気はなかった。ただ、本人にも知らされないこのようなテストが、なんの役に立つのか疑問に感じている教師が多い。子どもの力を伸ばす手だては他にもっとあるし、NRTのテストもやって全国学力テストもやり、新潟県の学力テストもやるなど、テストの合間に授業をしている感じ。テストのための授業であるかの状況が広がっている。また授業がつぶれることを危惧する教師も多い。

### 3 教師の多忙化と子どもたち

校長の声 「いじめ防止には、現場にゆとりが必要、忙しく走り回る教師にはいじめは見えない。子どもたちへ目を向けられないようにしたことに問題がある。いじめ・不登校者の問題が一層深刻になるのではないかと懸念する」

編集部 教育改革と多忙化のいつその深化はどのように関連していますか。

Fさん（小学校） いじめは、教師の見ていないところから起こります。また、いじめに発展しそうなケースや実際にいじめが起こった場合、ゆとりがないと見逃したり、十分に対応できなかったりします。担任がじっくりといじめられた子やいじめつ子とかかわる時間が必要です。いじめが起きないクラス作りのためにも、勤務時間内に教材研究ができる。学級経営の準備ができる時間が必要です。

Gさん（小学校） 特別支援が必要な場合、小規模校では対応できる職員の確保が困難である。人的余裕がない、加配教員が欲しい。だが加配がつけばすべてOKというわけではなく、その子の理解や支援の仕方、何を育てるかについては、全職員での共通理解のもとに行う必要がある。ただし、人も金も付けない現在の文科省の特別支援教育のやり方では限界がある。専門の職員を欧米のようにきちんと配置せずに、いまいる人でやるという方針では、学校によって格差が出る。

今年度、小中学校に派遣されるカウンセラーの派遣時間が大幅に減らされた。「いじめをなくそう」、

「不登校を減らそう」、「子どもを見ている人がいることを、子どもにも実感させる」といいながら、ある学校では、昨年度1回当たり4時間で年間8回の派遣（総時間32時間）だったのが、今年度は1回当たり2時間で年間5回（総時間10時間）へ減少した。金も人も増やさずに。また、現場の仕事も減らさずに子どものケアをするようなことを言われていることに、矛盾を感じる。1回で2時間では、一人の面接をするとは終わってしまう。カウンセリングの初回は1時間半から2時間程度話を聞くことが一般的であり、また、今年度の時間配当ではケアが必要な人に継続して面接することも困難である。

公立高校にはカウンセラーの配置はないのか？より相談者が必要な年頃であり、精神疾患の好発期でもある。それこそ、「うまく適応できないものはやめればよい」という切捨ての発想があるのではないか。Dさん アンケートの中にもあるとおり、本当に年々仕事量が増加するのみである。それでも職場の中にほっと息をつける場があればよいが、かえって多忙感をあおるような管理職が少なくはないのか。教育

計画などの体裁だけを気にして年度途中で全て縦版だった文書を横版に直させようとするとか、学級のおたよりを出そうにも教務主任から校長まで全部事前に回さないとかだとすると、細かいことのためにいちいち会議をするとか、余計なことのために仕事をする時間が1日1時間から2時間くらい増えた気がする（ちなみに、この前子どもが「先生、何か最近会議が多いね」と言っていた。本来はそういった時間を使って子どももの日記などをていねいに読んで、そこからいじめの萌芽を発見して、指導に生かしたりもできていたように思うが、徐々にそれができない雰囲気が出てきている。Eさん 新しいものをする時は報告書が増えてしまう。そのため、教員の事務量は増えた。作成文書（不登校報告や基本調査など様々な調査や報告）や会議が増え、放課後に子どもと一緒にいる時間が減っている。また、教員の意識も、子どもと話したり遊んだり勉強を教えたりすることよりも、パソコンに向かうことを優先させる傾向が強まっている。

編集部 子どもと向き合う時間、教材研究などどうしていますか。

Bさん 向き合う時間、教材研究をする余裕がない。

Eさん テスト前の放課後の質問教室の開催や、教育相談期間の設定など、子どもと向き合うための特別な時間を作り、その時間は教務室を離れ教室で子どもと過ごすようにしている。また、昼休みや朝会・終会の前後、なるべく教室にいる時間を増やすことに努めている。

Eさん 空き時間は、ノート点検や事務処理でおわることが多いため、教材研究や準備は、部活が終わった6時半過ぎからか、家庭に持ち帰ってからということが多く、土日に学校へ行ってやるという人も少なくない。

#### 4 父母の要求をどう受け止めるか。

校長の声 「持論や要求を一方的に押しつけてくる保護者への対応。地域と保護者の目的を同じくすることの困難さ、教職員と家庭・保護者との信頼関係が難しくなってきた。教師の指導力不足、権利意識が強く、責任感が薄い」

編集部 みなさんと保護者との関係で、難しいとは具

体的にどういう中味でしょうか。

Bさん 学校現場では一割程度のわがままな保護者に振り回されている。自分の子どものことしか言わない、一切、公的なことを言わないのが特徴である。

Eさん 自分の都合やわが子の利益だけを考えた学校批判が多くなっているのを感じる。PTAの役員を決めるときや仕事分担、子どもの友達関係でのトラブルに対する反応などの際に特にそのことを感じる。

Eさん 「学校と力を合わせて」ではなく、自分に都合のいいことしかいわない子どもの話のみを鵜呑みにして、学校を批判したり、直接教育委員会へ電話したりする親や、井戸端会議で、教師や問題を持つ他の子ども・親の非難を繰り返す親の存在。

Aさん 私の職場では、保護者の要求を聞くための「学校アンケート」のあり方について、論議になりました。教師パッシング(教師叩き)にならないような形式に改善を図りました。それでも無理難題要求はあります。しかし、その奥にある保護者の子どもへの切ない愛情を酌み取り、保護者と手をつないでいけるかが、教師の指導力だと考えます。とても難し

いことですが、子どもと教師の関係さえ健全なら、必ず保護者との関係修復はできます。

Dさん 「『身勝手』『傍若無人』を個性と捉える親の存在がある」のは確かかも知れない。しかし、我々はそれでもやらなければならないのである。親と共同歩調をとろうとしない限り親は心を開かない。一見「身勝手」「傍若無人」に見えるウラに、親の苦悩があることを読みとろうとしない限り、親の心はつかめないし、子の心もつかめない。ていねいに保護者の思いを聞き取ろうとすれば、分かってもらえることは決して少なくない。しかし、今の管理職の中には子どもに問題があると「親の愛情が足りない」で切っすてる態度が少なくない気がする。言うだけ言っで自分では何もしない（管理職だけではない気もするが）。

かつて一緒に勤めた校長先生は家庭に問題を抱えた不登校傾向の子を毎日のように校長室に呼んで遊んでくれた。決して保護者を責めたりするとはなかった。こういう方が減ってきている気がするのには教員評価のせいなのかも知れない。子どものことを見ないで校長室にこもっている管理職に限って、「自分は開かれた学校づくりをしています」といったことをよく言っ

ている気がする。

編集部 「教師の指導力不足、権利意識が強く、責任感が薄い」は事実かどうか。実際はどうでしょうか。

Aさん 教師の力量も様々であると思います。しかし、その人が力を発揮できるように時間を作り出すことが大切です。そのためにも現場の人員を増やすべきです。教師の指導力不足や、責任感が薄いことに原因をもっていくのでは、まさに管理職の指導力不足や、責任感が薄い現れだと考えます。もともと教師は、最初から指導力があるものではありません。職場の協働の中で学んで身につけていくものだと考えます。また、私の周りには、権利意識が強い教員はいません。みんな、小さくなってコマネズミのように働いています。

Fさん 教師にとって十分な研修の機会が保障されているでしょうか。教職員の勤務実態調査で明らかのように「授業準備の時間が1日44分」「校内研修1日7分」しかとれない。一般的に一時間の授業に一時間の準備が必要と言われています。このような状態でよい結果を出せという方がおかしいです。そ

れでも一般的な教師は、私生活を犠牲にして時間を生み出そうとしています。

Bさん 中学教師の長時間残業、土日の仕事、部活動は教師を多忙にしている。

Eさん 空き時間(つぎの授業までの準備のときにインターネットで自分の趣味(ゴルフ)関係の検索をしている若い教師、口を開けば子ども批判を繰り返す教師、「できるだけ仕事をしないようにしているのではないか」と疑いたくなる年配の教師がいることも事実。親の批判が当たっている場合もあり、これでは親と教師の信頼関係はできないし、子どもとの信頼関係もできないだろうなと思わざるを得ないことも、確かにある。

編集部 父母は以前と違ってきたのでしょうか。父母と連帯するにはどうしたらよいのでしょうか。

Eさん 「若い教師を育てる」「学校と力を合わせる」といったゆとりや寛容さがなくなっているのは事実。生活にゆとりがなくなっているのも感じる。また、自分のことを優先させ、子どものことは「口しか出さない」という親もいる。親との信頼関係は、子どもとの信頼関係をどうつくるかにかかっていると思う。

## 5 教師の専門性(教育的力量)をどう高めるか

校長の声 「身勝手」「傍若無人」を個性と捉える親・教師の存在。保護者・生徒に対して当然の指導が出来ない風潮がある。子どもと心の交流が築けず、関係者同士の信頼関係を構築できずにいる。全教科を担当する小学校の教師は教材研究する期間的余裕がほしい」

編集部 これまで教員は専門性をどうとらえてきたでしょうか。「憲法、旧教育基本法、子どもの権利条約など国連の条約、決議にたいする関心・理解」など。

Eさん 法律や条約・決議への理解と日常の自分の仕事に生かす意識は、ほとんどないといっている。教師としての喜びを感じられなくなっている現実もあるし、そもそもそれを期待せず、「仕事だから」というくらいにしか思っていない(当然子どもとの関わりも義務的になり、信頼関係はできにくい)傾向が強まっている。

編集部 「子どもと心の交流が築けず、関係者同士の信頼関係を構築できずにいる」は、実際はどうでしょうか。

Dさん 「保護者・生徒に対して当然の指導ができない



教師がいる」ことについて、これは残念ながら確かにいるのかもしれない。とはいえ、そうであれば、指導をして頂きたいと思う。子どものためになるのだから。指導してもダメな先生なら別であろうがそういった方はそんなに多くはないのではないだろうか。

それにしても、管理職の方がいつておられるとおり、確かに教材研究の時間がないほどの忙しさは確か。昔は夏休みなどに自分から研究会などに行つて、力を付けていくことができた。

ところが、今は、研究会にも簡単には行けない。年休で対応しなければならなかったり、はたまた年休すら取れずに行くことすらできないこともある。半ば強制的に出勤を強いられたり、出張しなければならなかったり、一体どうやって力をつけられるのだろうか。これからの若い方は官制の研修や校内の研修が全てだと思いかねない。ゆとりを管理職の方自らで作り出して頂けるとありがたい。

Eさん 「なぜ教師になったのか」「どんな教師になりたいのか」「子どもを一人の人間として尊重し、子どもの心を大切にしているか」「教師の喜びは何か」など、

教師の原点がばやけてしまっている教師が多くなっているのが、そのような意見に結びついてなっているのではないか。なぜそうなのかを考える必要があるが、教育の本質に迫るような教師同士の会話や自己相互批判・援助などが職場から消えてしまっている中で、一人一人の教師がそれを自らに問いかける研修が必要かもしれない。

編集部 子どもの状況をよく知ることは教員の専門性の中心だと思われませんが、その学習はどうしていますか。

Eさん 子どもたちとの会話。子どもたちが書く文章。授業中の発言。部活や休み時間の観察。新聞や小説。マスコミの活用。サークルでの学習。

## 6 校長・管理職として、二つあって欲しい

編集部 学校集団のなかでの校長は、いまどんな役割をもつてすすめていますか。

Hさん(中学校) 中学の生徒指導困難校に勤めている。ここでは校長の果たす役割は実に大きい。事件、トラブル、親からのクレーム。それらにどういう姿勢で臨

むかは、ずばり校長の学校観が問われる。本校の校長は、「たいへんな子も簡単には切り捨てない」「問題行動があっても、地域に学校を開く」という方向性を打ち出している。しかし、教育委員会の指導や、校長会での論調は大きな影響を持つ。先日は「ゼロトレランス(不寛容)」などという、本校には最もふさわしくない発言も飛び出した。校長も揺れている。

**編集部** 校長の教育的リーダーシップと教員集団はどんな関係をもつたらよいか。いい校長とはどんな人ですか。

**Cさん** 校長先生の回答で、ただ、大変だという一般的な感想が多かったなかで、具体的な要求(教育補助員の増員)や「震災復興担当に授業を担当してもらう」ことで授業の持ち時間数が軽減できるを記入していた方がいて、こういう校長と手を組んでいきたいと思いました。

**Aさん** 管理職の方たちの緊急の仕事は、①子どもの前に立つ教師の教育環境を整えること(いらぬ実務を最大限に減らし、子どもと教師が向かい合う時間を保証するために、お金と物と人を最大限に確保すること。管理を強化し意地悪やバワハラはもつての他。意地悪やバワハラをした人は、校長室で新聞を読んでいて下さい)。

② 保護者とのトラブルから教師を守ってくれること(保護者の訴えに耳を傾けることも当然ですが)、とことん、教師を守ることに困っている教師の教室に行つて授業をしてあげてほしい。学校づくりのリーダーや、ブランドデザイン作りは、ほとんどどこも同じなのであまり期待していません。私学でもなければ、独自性は発揮できないのかもしれませんが。

**Eさん** 目は子どもたちに向け、子どもたちを大切に考える立場から、教職員を観察・指導・援助をしてほしい。また、教職員を大切にする立場から、教育委員会への働きかけや校長会での発言を行つてほしい。

**編集部** 長時間のご発言有り難うございました。これからの活動に多くの示唆が含まれていると存じます。これで終わります。

